

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)																	
以下の5つの人材養成目標を掲げ、この人材養成目標に到達した者に学士(経済学)の学位を授与する。 1. 幅広い教養、知識、判断力を持った社会で活躍できる人材を養成する。 2. 経済学・経営学の専門知識を持った人材を養成する。 3. 現代社会に対する強い問題意識をもち、自分自身の力で課題を発見し、解決する能力をもった人材を養成する。 4. 高いコミュニケーション能力(外国語によるもの含む)、プレゼンテーション能力、IT能力を養う。 5. 地域社会が抱える問題に強い関心をもち、そこに積極的に関わることのできる人間性豊かな人材を養成する。																	
学類のCP(カリキュラム編成方針)																	
【2017年度の入学者】1年次には、国際基幹教育院での勉学および語学力の向上に集中する。2年次から履修可能な専門教育のカリキュラムは、人材養成目標1に鑑みて、幅広い知識を会得するとともに、人材養成目標2にみるように、各自の興味関心を深める専門性の確立を目的にフレキシブルに履修科目が選択できるよう設計されている。履修科目の選択に際して適切な科目選択をするよう2回、アドバイザー教員と面談する機会が確保されている。なお、経済学を学ぶ上で共通フレームワークとなる科目については、専門基礎科目として選択必修になっており、専門基礎科目から12単位を履修することが卒業要件となっている。3年次から、各自が関心を持つ専門演習に配属され、それぞれの専門分野をより深く探求する。演習では、研究指導を目的とした卒業研究(4年次)の履修が可能である。演習での研究活動を通じて、人材養成目標3、4、5の実現が期待される。また、演習配属後に、経済理論・経済政策コース、経営・情報コース、比較社会経済コースのいずれかに配属されるが、各コースが設定したコース選択必修科目から少なくとも16単位修得することが卒業要件となっている。なお、人材養成目標3および4の実現をめざして、経済学類で提供されている科目の一部には能動的学習が導入されている。																	
学類の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)																	
学類のカリキュラム																	
科目番号	授業科目名	授業科目の主題 (この授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学習目標	学年	単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
10101	学域GS言語I	The Humanities GS Language Course (HGSL) I aims at development of English proficiency achieved in the first-year GS language classes, as well as acquisition and practice of basic knowledge and skills which the majored academic discipline requires. This course is closely linked with the HGSL II, focusing more on understanding the discipline of the specific academic field than on its practical application.	Students who have completed the course will be able to: 1. acquire basic knowledge of academic subjects in the majored field. 2. build up critical perspectives on the specific academic topics. 3. construct their presentation in a manner as natural and organized as that of the teacher.	2	1	◎										◎	◎
10201	学域GS言語II	The Humanities GS Language Course (HGSL) II aims at further development of English proficiency achieved in the first-year GS language classes, as well as acquisition and practice of more advanced knowledge and skills which the majored academic discipline requires for presentation and essay writing. This course is closely linked with the HGSL I, emphasizing the critical analysis of research subjects of the specific academic area.	Students who have completed the course will be able to: 1. acquire advanced knowledge of academic subjects in the majored field. 2. build up critical perspectives on the specific academic topics. 3. construct their presentation in a manner as natural and organized as that of the teacher.	2	1	◎										◎	◎
13103	経済統計学A	経済分析に使われる統計手法の基礎を学習する。	基礎的な統計計算が一通り出来るようになる。	2	2	◎						△			○	○	
13201	理論経済学ⅠA	市場の仕組みを理解する	ミクロ経済学を学習する上で必要となる諸概念を理解することができるようになる。 1. 需要曲線の概念を理解することができるようになる。 2. 供給曲線の概念を理解することができるようになる。	2	2	◎	◎			△	△	○	○				
13202	理論経済学ⅡA	マクロ経済学を中心として経済学の基礎的な考え方や分析方法を学ぶ。	1. 市場経済の機能と基礎的なマクロ経済理論を体系的に身につけることができる。 2. マクロ経済に関する諸概念を理解し、自分の力でそれらを実践経済に適用し、議論を展開することができる。	2	2	◎	◎			△	○	○	○				
13203	現代経済理論A	資本主義経済の基本的なメカニズムを理論的に理解する。	1. まず専門用語をきちんと理解する。 2. そのうえで、用語を正しく使ってロジックを説明できるようになる。 3. 理論的説明にかんじて簡単な数学的表現に慣れる。	2	2	△	○	○		△	◎	◎					
13301	日本経済史A	近代日本経済に生じた事象の因果関係を理解する。	1. 日本帝国主義を含む戦前日本経済の実相を理解できるようになる。 2. 事象を複眼的に捉えることができるようになる。	2	2	◎	○					○	△		△		
13302	西洋経済史A	ヨーロッパ経済史を通して経済学の基礎知識を学ぶ。	近代から現代のヨーロッパ経済の発展過程をたどることによって、 1. 経済学的な分析手法の基礎を習得することができる。 2. 現在のヨーロッパ経済の歴史的基礎を理解することができる。	2	2	◎				○	◎						
13304	アジア経済史A1	中国を例に近代アジア経済史の基礎知識を学ぶ。	近代アジアにおける資本主義的経済発展について再考することを目標とする。	2	1	○	○					○	◎		△		
13305	アジア経済史A2	中国を例に近代アジア経済史の基礎知識を学ぶ。	近代アジアにおける資本主義的経済発展について再考することを目標とする。	2	1	○	○					○	◎		△		
13401	経済学史	経済思想の形成過程の検証	近代の成立とセットで成立した経済思想を学ぶことにより、近代の意味について考える。	2	2	○						○	◎				
13402	社会思想史A	現代社会を支える思想の歴史的・形成過程の検証	現代社会が抱える自由、平等、人権、マイノリティ問題等を考えるさいの方法的視野を広げることができる。	2	2	○						◎					
13403	政治経済学	資本主義経済の分析にあたって理論的・歴史的(制度論的)・政策的視野をもつべきことを学ぶ。	時代背景をしっかりと踏まえたうえで、政策的意義や理論的ベースの妥当性を考えることができるようになる。	2	2	○		○				◎	○				
33011	演習			3・4	8									○	◎	◎	◎
33083	卒業研究			4	2										◎	◎	
33087	インターンシップ	就業体験を通して経済学、経営学を実践的に学ぶ	1. 通常の学習と就業体験との結合ができる。 2. ビジスマナー等一般社会常識の習得ができる。 3. 就業観の形成ができる。	3	2	○									○		○
33107	現代経済理論B	20世紀以降の資本主義経済の長期動態に関する異端派マクロ経済理論を理解する。	1. 20世紀以降の資本主義経済の長期動態を理解する。 2. 特に「技術進歩」と「金融」の役割を理解する。 3. 資本主義経済の制度的・進化的アプローチとは何かを理解する。	2	2	△	○	○		△	◎	◎					
33109	理論経済学IB	不完全競争と市場の失敗について理解する	1. 市場における企業行動の特徴と問題点を理解することができるようになる。 2. 経済政策の考え方を理解することができるようになる。 3. 様々な経済問題を経済学の観点から理解することができるようになる。	2	2	◎	◎	△		△	◎	○			○		
33111	理論経済学ⅡB	マクロ経済学に関する標準的な考え方や分析方法を体系的に学ぶ。	1. 標準的なマクロ経済理論を体系的に身につけ、それを論理的に説明できる。 2. マクロ経済に関する諸概念を理解し、自分の力でそれらを実践経済に適用できる。	2	2	◎	◎		△	○	◎	○					
33114	計量経済学	横断面データを用いた線形回帰分析手法	横断面データを用いた回帰分析手法が理解できるようになる。	2	2	◎									○	◎	
33120	統計学	資料の整理と推測統計基礎	統計学の基礎概念を理解する。種々の表を批判的に見られる。簡単なデータ処理が出来る。	2	2	◎						△			○	○	

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)																	
以下の5つの人材養成目標を掲げ、この人材養成目標に到達した者に学士(経済学)の学位を授与する。																	
1. 幅広い教養、知識、判断力を持った社会で活躍できる人材を養成する。 2. 経済学・経営学の専門知識を持った人材を養成する。 3. 現代社会に対する強い問題意識をもち、自分自身の力で課題を発見し、解決する能力をもった人材を養成する。 4. 高いコミュニケーション能力(外国語によるものも含む)、プレゼンテーション能力、IT能力を養う。 5. 地域社会が抱える問題に強い関心をもち、そこに積極的に関わることのできる人間性豊かな人材を養成する。																	
学類のCP(カリキュラム編成方針)				学類の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)													
[2017年度の入学者]1年次には、国際基幹教育院での勉学および語学力の向上に集中する。2年次から履修可能な専門教育のカリキュラムは、人材養成目標1に鑑みて、幅広い知識を会得するとともに、人材養成目標2にみるように、各自の興味関心を深める専門性の確立を目的にフレキシブルに履修科目が選択できるよう設計されている。履修科目の選択に際して適切な科目選択をするよう2回、アドバイザー教員と面談する機会が確保されている。なお、経済学を学ぶ上で共通フレームワークとなる科目については、専門基礎科目として選択必修になっており、専門基礎科目から12単位を履修することが卒業要件となっている。3年次から、各自が関心を持つ専門演習に配属され、それぞれの専門分野をより深く探求する。演習では、研究指導を目的とした卒業研究(4年次)の履修が可能である。演習での研究活動を通じて、人材養成目標3、4、5の実現が期待される。また、演習配属後に、経済理論・経済政策コース、経営・情報コース、比較社会経済コースのいずれかに配属されるが、各コースが設定したコース選択必修科目から少なくとも16単位履修することが卒業要件となっている。なお、人材養成目標3および4の実現をめざして、経済学類で提供されている科目の一部には能動的学習が導入されている。																	
学類のカリキュラム																	
科目番号	授業科目名	授業科目の主題 (この授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学習目標	学年	単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
33125	経済統計学B	経済分野ならではの実データに関する知識を得る。	主要な経済統計を眺めるようになる。	2	2					◎			△			○	○
33138	経済政策論	政策を支える理論がどのような時代背景やその時代の課題に応えようとして生まれてきたのかを考える。	マクロ経済学やミクロ経済学が、実際の政策とどのように結びつくのかを理解できるようになる。	2	2					○	◎		○	△	◎	△	
33140	金融経済論	金融取引の増加は人々の暮らしにどのような影響を与えるのか。金融取引と実物経済の関係を探るための基礎として、経済学を応用した金融取引や金融市場の考え方を講義する。	1.金融の基本的概念を理解することができる。 2.家計・企業の金融取引について理解を深める。 3.金融取引における金融機関や金融制度の役割を理解することができる。	2	2			○	◎	◎	○	◎	◎	△	○	△	△
33143	金融制度論A	証券市場論、株式会社論	主要国(オランダ、イギリス、アメリカ、日本)の証券市場創成史、国民経済と証券市場との関連について一通り理解する。	2	2			○	○	○	◎	○	△	○	△	△	
33145	金融制度論B	証券市場論、株式会社論	有価証券(株式、債券)と企業金融について理解を深める。また、発展学習である敵対的買収と買収防衛策についても一通り理解する。	2	2			○	○	○	◎	○	△	○	△	△	
33151	社会保障論 I	社会保障の概念、存在根拠、機能と役割、歴史、経済・財政とのかわりなど、社会保障における総論部分の基本的な内容について取り上げる。	現代社会において社会保障が国民生活、国民経済とどのようにかわり、いかなる役割を果たしているのかを理解する。	2	2			○	△	○			△	△	◎	△	○
33153	社会保障論 II	医療保険、年金、介護保険を中心に、社会保障を構成する各制度の具体的な仕組みと現状及び課題について取り上げる。	社会保障の各制度について、具体的な仕組みを踏まえたうえで、それぞれの制度の政策課題について理解する。	2	2			○	△	○			△	△	◎	△	○
33155	財政学A	現代財政学の基礎	現代の財政問題と理論的に解明するための基礎を修得する。	2	2			○	○	△			◎	○	○	○	
33157	財政学B	財政学の現代的応用	財政のグローバル化など、現代の財政現象を理論的に理解できるようになる。	2	2			○	○	△			△	○		◎	
33159	地方財政論A	地方財政の財源・経費の構造の背景にある政策枠組みを理解する	1. 国と地方の機能分担・財源配分の考え方を理解する。 2. 地方財政の歳入・歳出・地方債の構造を知る。 3. 歳出・財源構成の変化の背景にある政策動向を理解する。	2	2			○	△					◎	○	○	
33161	地方財政論B	自治体財政分析に必要なデータ入手と分析方法を学ぶ	1. 自治体の財政データの入手方法を知る。 2. 歳入・歳入・地方債等のデータ分析方法を学ぶ。 3. 歳出と財源を関連付けて自治体の財政構造を説明できるようになる。	2	2			○	△					◎	○	○	○
33163	地域経済論A	グローバル化のもとでの諸地域経済の現状、課題、発展戦略	1. 現代経済に関する地域的視点および地域経済分析の理念と方法を学ぶ。 2. 足下の地域の実態から経済社会の問題を解明する分析視角を養う。	2	2			○					○	◎	○	○	
33165	地域経済論B	地域経済学の理論、分析方法、地域政策の歴史	1. 現代経済に関する地域的視点および地域経済分析の理念と方法を学ぶ。 2. 地域経済学と地域政策の歴史的な展開を理解する。	2	2			○					○	◎	○	○	
33167	生活経済論A	経済社会の変化と生活経済	1.生活経済の新たな諸問題を理解する。 2.世界経済の中に、日本・地域での私たちの生活に関わる経済問題を、労働生活と消費生活の側面から、把握できるようになる。	2	2			○		○			△	○	◎	○	○
33169	生活経済論B	生活経済学の方法論	1.生活経済学の理論的背景が理解できるようになる。 2.生活環境のあらゆる場面で主体的で自立した社会人となるために必要な知識の体系を身につける。	2	2			○		○			△	○	◎	○	○
33187	労働経済論	戦後日本経済の歴史的変遷のなかで、雇用と働き方・働かせ方の現状と問題点、改革の課題について明らかにし、望ましい労働政策とは何かを考察する。	雇用と働き方・働かせ方の現状と問題点を捉える力を養う。労働問題の諸事項(賃金、雇用の安定性、均等待遇、職場の安全、労働災害、過労死、職業訓練など)について理解し、望ましいについて自らの見解を持てるようになる。	2	2			○		△			○	◎	○	△	△
33189	理論経済学ⅢA	ミクロ経済学の知識を基礎にミクロ経済学を学びます。具体的には、都市経済学の理論と実証分析について学びます。	・都市政策や建築の知識を理解して、説明ができる。 ・ミクロ経済学の知識を取得し、都市経済学の考え方や手法を理解することができる。 ・問題意識を持ち、社会の問題をミクロ経済学の理論を応用して理解することができる。	2	2			◎	◎	◎			◎	◎	○		
33191	理論経済学ⅢB	ミクロ経済学の知識を基礎にミクロ経済学を学びます。具体的には、実験経済学の理論と実験手法について学びます。	・経済学の理論を再確認し、実験の手法について理解することができる。 ・実験に積極的に参加し、データ解析について理解することができる。 ・自ら問題意識を持ち、実験計画や解析方法を計画することができる。	2	2			◎	◎	◎			◎	◎	○		
33193	経済数学	経済学で用いられる基礎的な数学について学ぶ。	1. 初等な解析学(特に微分法)の知識を身に付け、実際に様々な関数を微分することができる。 2. 微分法を中心として数学的手法がどのように経済学に適用されるのかを理解できる。	2	2			○	◎				○				
33195	社会政策論 I	社会政策に関する理論、思想、歴史的展開、政策体系	・社会政策形成と歴史的背景を理解する。 ・今日の雇用・失業の現状について統計資料を用いて分析する力をつける。 ・雇用・失業に関する社会政策は歴史的にどのように発展してきたかについて理解する。 ・雇用・失業政策をめぐる今日の対抗について理解するとともに、望ましい雇用・失業政策について自らの見解を持てるようになる。	2	1			○		○			△	◎	○	○	
33197	社会政策論 II	社会政策に関する理論、思想、歴史的展開、政策体系	・社会政策形成と歴史的背景を理解する。 ・今日の雇用・失業の現状について統計資料を用いて分析する力をつける。 ・雇用・失業に関する社会政策は歴史的にどのように発展してきたかについて理解する。 ・雇用・失業政策をめぐる今日の対抗について理解するとともに、望ましい雇用・失業政策について自らの見解を持てるようになる。	2	1			○		○			△	◎	○	○	

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)																	
以下の5つの人材養成目標を掲げ、この人材養成目標に到達した者に学士(経済学)の学位を授与する。 1. 幅広い教養、知識、判断力を持った社会で活躍できる人材を養成する。 2. 経済学・経営学の専門知識を持った人材を養成する。 3. 現代社会に対する強い問題意識をもち、自分自身の力で課題を発見し、解決する能力をもった人材を養成する。 4. 高いコミュニケーション能力(外国語によるものを含む)、プレゼンテーション能力、IT能力を養う。 5. 地域社会が抱える問題に強い関心をもち、そこに積極的に関わることのできる人間性豊かな人材を養成する。																	
学類のCP(カリキュラム編成方針)						学類の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)											
【2017年度の入学者】1年次には、国際基幹教育院での勉学および語学力の向上に集中する。2年次から履修可能な専門教育のカリキュラムは、人材養成目標1に鑑みて、幅広い知識を会得するとともに、人材養成目標2にみるように、各自の興味関心を深める専門性の確立を目的にフレキシブルに履修科目が選択できるよう設計されている。履修科目の選択に際して適切な科目選択をするよう年に2回、アドバイザー教員と面談する機会が確保されている。なお、経済学を学ぶ上で共通プラットフォームとなる科目については、専門基礎科目として選択必修になっており、専門基礎科目から12単位を履修することが卒業要件となっている。3年次から、各自が関心を持つ専門演習に配属され、それぞれの専門分野をより深く探求する。演習では、研究指導を目的とした卒業研究(4年次)の履修が可能である。演習での研究活動を通じて、人材養成目標3、4、5の実現が期待される。また、演習配属後に、経済理論・経済政策コース、経営・情報コース、比較社会経済コースのいずれかに配属されるが、各コースが設定したコース選択必修科目から少なくとも16単位修得することが卒業要件となっている。なお、人材養成目標3および4の実現をめざして、経済学類で提供されている科目の一部には能動的学習が導入されている。																	
学類のカリキュラム																	
科目番号	授業科目名	授業科目の主題 (この授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学習目標	学年	単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
33199	社会政策論 III	現代日本の雇用と働き方・働きかたが抱える問題点と改革の方向	・日本の労働時間や賃金、労使関係、男女平等などをめぐる現状について統計資料を用いて分析する力を付ける。 ・日本の労働問題の日本の特徴及びそれを規定している要因について、諸外国との比較をおして理解する。 ・労働時間や賃金、労使関係、男女平等に関する政策をめぐる今日の対抗について理解するとともに、望ましい政策について自らの見解を持てるようにする。	2	1	○			○		△		◎	○	○		
33201	社会政策論 IV	現代日本の雇用と働き方・働きかたが抱える問題点と改革の方向	・日本の労働時間や賃金、労使関係、男女平等などをめぐる現状について統計資料を用いて分析する力を付ける。 ・日本の労働問題の日本の特徴及びそれを規定している要因について、諸外国との比較をおして理解する。 ・労働時間や賃金、労使関係、男女平等に関する政策をめぐる今日の対抗について理解するとともに、望ましい政策について自らの見解を持てるようにする。	2	1	○			○		△		◎	○	○		
33203	環境経済論I	環境問題に対する経済学的諸アプローチの紹介	1.環境問題に対するミクロ経済学、マクロ経済学、社会経済学、エコロジー経済のアプローチを理解する。 2.環境問題に対する諸経済学的アプローチに対し、それぞれの視点の違いの意味を理解し、それらをもとにしてアプローチ間の批判的検討を行なう能力を身に付ける。	2	1	△			○			○	◎				
33205	環境経済論II	環境問題に対する経済学的諸アプローチの紹介(社会経済学、社会生態システム論・レジリエンス論)	1.環境問題に対する社会経済学、社会生態システム論・レジリエンス論のアプローチを理解する。 2.環境問題に対する諸経済学的アプローチに対し、視点の違いの意味を理解し、それらをもとにしてアプローチ間の批判的検討を行なう能力を身に付ける。この講義では、社会権的存在や生活の場としての地域という視点を理解する。	2	1	△			○			○	◎				
33207	環境政策論I	環境政策の歴史と原理、手法、主な政策の紹介(公害、地球温暖化・エネルギー)	1.環境政策の原理を、効率性のみならず環境制約・資源制約の視点、そして公正などの社会権の視点から理解できるようになる。 2.さまざまな環境問題の発生と克服の過程を社会経済学的に理解できるようになる。	2	1	△			○			○	◎				
33209	環境政策論II	環境政策の歴史と原理、手法、主な政策の紹介(貿易と環境、社会生態システム論)	1.環境政策の意義を、空間的地域的視点から理解できるようになる。 2.さまざまな環境問題の発生と克服の過程を社会経済学的に理解できるようになる。	2	1	△			○			○	◎				
33211	農業経済論I	農業問題に対する社会経済学的アプローチの紹介	1.農業と資本主義発展について、ミクロ経済学・マクロ経済学に触れながら、社会経済学的に理解する。 2.農産物価格、農業の技術と経営のかかわり、農業立地・フードシステムについて理解する。	2	1	△			○			○	◎				
33213	農業経済論II	農業近代化に関わる農業問題に対する社会経済学的視点の紹介	1.農業と資本主義発展について、社会経済学的に理解する。 2.農業・農村と社会発展、農業の環境問題、食料問題について理解する。	2	1	△			○			○	◎				
33215	農業政策論I	農業政策の歴史的展開と手法の変遷	1.農業政策形成の歴史的背景とその変遷について、社会経済学的に理解する。 2.特に、価格・所得政策と構造政策について知見を広げ、農業、農村、農業経営のあり方について考えることができるようになる。	2	1	△			○			○	◎				
33217	農業政策論II	農業政策の歴史的展開と手法の変遷	1.農業政策形成の歴史的背景とその変遷について、社会経済学的に理解する。 2.世界経済の中の農業・農村、農業と環境の諸問題について知見を広げ、消費者の視点、地域社会の視点から農業、農村のあり方について考えることができるようになる。	2	1	△			○			○	◎				
33301	経営学総論A	企業の形態とその構造、組織について	現代企業の仕組みと社会との関係を理解できるようになる。	2	2	◎	◎	○	◎	○		○	○	△			
33303	経営学総論B	現代企業の経営戦略とグローバル化の展開	現代企業がどのように経営戦略を立て、それを実行しているのか、情報化やグローバル化の視点から理解できるようになる。	2	2	◎	◎	○	◎	○		○	○	△			
33305	経営管理論A	経営管理理論の潮流	企業において経営管理がいかに実践されてきたのか、理論と実践の両面から理解できるようになる。	2	2		◎		◎	○	△	○					
33307	経営管理論B	日本企業の経営管理	日本企業がどのように経営管理を実践しているのか、その変遷と現状について理解できるようになる。	2	2		◎		◎	○			○	◎			
33309	生産システム論A	生産システムを概念的視点から言及しながら、次世代へつなげる知的生産システムの基礎理論・手法について講義する。	1.生産システム概念と原理について、理解できるようになる。 2.次世代生産システムの実現のために求められる要件について議論できるようになる。	2	2		○		◎						○		
33311	生産システム論B	生産システムの運営に関わる生産管理の考え方や技法について講義した上、その実例を紹介する。	1.生産管理の概念と基礎知識について、理解できるようになる。 2.生産管理の抱えている諸問題を明らかにした上で、その解決のための基本的な考え方や方法論について議論できるようになる。	2	2		○		◎						○		
33313	経営情報論A	企業の組織と情報	企業の組織現象を情報に注目して理解する。	2	2	△	◎		○							○	
33315	経営情報論B	企業の戦略と情報および情報の視点で見た企業の業務プロセス	企業の戦略行動を情報に注目して理解する。また情報システム関連誌の内容を理解できるようになる。	2	2	△	△		◎								
33317	ビジネス・ファイナンスA	コーポレート・ファイナンス	ファイナンスに関する基本的な知識や概念を実習等を通して体系的に身につけることを目的としている。	2	2				○	○					○		
33319	ビジネス・ファイナンスB	パーソナル・ファイナンス及びポートフォリオ理論	ファイナンスに関する基本的な知識や概念を体理解できるようにする。	2	2				○	○					○		
33321	会計学原理A	会計学基礎	伝統的会計実践の構造と機能を理解する。	2	2	○	◎		○								

学類のディプロマポリシー(学位授与方針)																	
以下の5つの人材養成目標を掲げ、この人材養成目標に到達した者に学士(経済学)の学位を授与する。																	
1. 幅広い教養、知識、判断力を持った社会で活躍できる人材を養成する。 2. 経済学・経営学の専門知識を持った人材を養成する。 3. 現代社会に対する強い問題意識をもち、自分自身の力で課題を発見し、解決する能力をもった人材を養成する。 4. 高いコミュニケーション能力(外国語によるものも含む)、プレゼンテーション能力、IT能力を養う。 5. 地域社会が抱える問題に強い関心をもち、そこに積極的に関わることのできる人間性豊かな人材を養成する。																	
学類のCP(カリキュラム編成方針)						学類の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)											
【2017年度の入学者】1年次には、国際基幹教育院での勉学および語学力の向上に集中する。2年次から履修可能な専門教育のカリキュラムは、人材養成目標1に鑑みて、幅広い知識を会得するとともに、人材養成目標2にみるように、各自の興味関心を深める専門性の確立を目的にフレキシブルに履修科目が選択できるよう設計されている。履修科目の選択に際して適切な科目選択をするよう2回、アドバイザー教員と面談する機会が確保されている。なお、経済学を学ぶ上で共通フレームワークとなる科目については、専門基礎科目として選択必修になっており、専門基礎科目から12単位を履修することが卒業要件となっている。3年次から、各自が関心を持つ専門演習に配属され、それぞれの専門分野をより深く探求する。演習では、研究指導を目的とした卒業研究(4年次)の履修が可能である。演習での研究活動を通じて、人材養成目標3、4、5の実現が期待される。また、演習配属後に、経済理論・経済政策コース、経営・情報コース、比較社会経済コースのいずれかに配属されるが、各コースが設定したコース選択必修科目から少なくとも16単位修得することが卒業要件となっている。なお、人材養成目標3および4の実現をめざして、経済学類で提供されている科目の一部には能動的学習が導入されている。																	
学類のカリキュラム																	
科目番号	授業科目名	授業科目の主題 (この授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学習目標	学年	単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
33323	会計学原理B	会計モデルの記述・分析	現行会計モデルの理論的枠組み、特徴、および問題点を理解する。	2	2					◎							
33326	管理会計論	企業および組織の活動をコントロールするために使われる計数的手段	管理会計が、何によって、誰のために何をするのかということが理解できるようになる。	2	2					◎							
33329	財務会計論A	財務諸表の構造的理解	会計情報の外部利用者として、財務諸表の情報内容について構造的に理解できるようになる。	2	2					◎	○						△
33331	財務会計論B	財務諸表に基づく経営分析	会計情報の外部利用者として、財務諸表に基づく経営分析が実行できるようになる。	2	2					◎	○						△
33333	情報科学A	情報化社会の進展の概要	情報化社会の進展のために、技術、政策、サービスの全体を理解する。	2	2					◎							○
33335	情報科学B	情報(データ)分析の方法論	情報分析のための統計的データ解析に基づいた方法論を学ぶ。	2	2					◎							◎
33337	マーケティングA	マーケティングの考え方基礎理論を学ぶ	企業のマーケティング活動について、基本的な理解ができるようになる。	2	2					◎	△						○
33339	マーケティングB	マーケティングの知識を応用する	研究開発から市場までの一連の企業活動を理解し分析できるようになる。	2	2					◎	△						○
33341	経営戦略論	企業経営と戦略	企業経営における戦略の役割と経営戦略について理解する。	2	2					○							◎
33501	西洋経済史B	ヨーロッパ経済史を通して経済史の基礎理論を学ぶ。	古代から近代のヨーロッパ経済の発展過程をたどることによって、 1. 経済史から経済学にアプローチする手法を身に付けることができる。 2. 現在のヨーロッパ経済の歴史的基礎を理解することができる。	2	2					◎							
33505	日本経済史B	現代日本経済に生じた事象の因果関係を理解 する	1. 戦後日本経済の実相を理解できるようになる。 2. 事象を複眼的に捉えることができるようになる。	2	2					◎							△
33511	社会思想史B	現代社会を支える思想の歴史的形過程の検証	現代社会が抱える自由、平等、人権、マイノリティ問題を考えるさいの方法的視野を広げることができる。	2	2					○							◎
33513	世界経済論A	20世紀の世界経済の展開	20世紀以降の世界経済の展開と概要を、経済理論、政治経済思想、豊かな国とそうでない国との関係性などを通じて理解する。	2	2					◎	△						◎
33515	世界経済論B	21世紀: 発展途上国経済を巡る世界の動き	1. 発展途上国を中心に世界経済の現状について学ぶ。 2. 公的セクター、企業セクター、市民社会セクターの3つの視点から発展途上国支援策について理解する。 3. 世界経済および発展途上国経済を理解するための統計とその利用方法について学ぶ	2	2					◎	△						◎
33517	国際公共経済論A	国際公共財に関する総論: 歴史と理論	1. 国際政治経済秩序の根幹を成す「国際公共財」につき、①「国際公共財」とは何か、②「国際公共財」の形成・発展過程について理解することができる。 2. 国際政治経済学の代表的理論について理解することができる。	2	2					◎							◎
33519	国際公共経済論B	国際公共財に関する各論	国際法、国際機構、対途上国援助など、現代世界における主要な国際公共財について、具体的に理解することができる。	2	2					◎							◎
33531	社会言語学A	日常的な日本語から日本社会を見る	日本語と日本社会との関連を見る目を養うことを目標とする。	2	2					○							◎
33533	社会言語学B	対応する場面で使用される日本語と外国語を比較する。	日本語と外国語の発想性の異同を分析できるようになる。	2	2					○							◎
33539	国際金融論A	国際金融の基礎構造	国際金融の基本的概念を整理し理解する。	2	2					◎							◎
33541	国際金融論B	国際金融史と現状の検討	現行制度の岩盤にある国際金融システムの変遷を理解し、変容し続ける現在の世界的課題を考察する。	2	2					◎							◎
33545	アジア経済論	アジアの経済発展のダイナミクスを、金融経済、国際経済、開発経済の視点から講義する。	1. アジア地域の経済発展について、貿易・為替・金融・政府の役割を理解することができる。 2. アジア地域における経済統合化について、その特徴や地域内各国経済への影響を理解することができる。	2	2					◎	○						◎

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)																		
以下の5つの人材養成目標を掲げ、この人材養成目標に到達した者に学士(経済学)の学位を授与する。																		
1. 幅広い教養、知識、判断力を持った社会で活躍できる人材を養成する。 2. 経済学・経営学の専門知識を持った人材を養成する。 3. 現代社会に対する強い問題意識をもち、自分自身の力で課題を発見し、解決する能力をもった人材を養成する。 4. 高いコミュニケーション能力(外国語によるものも含む)、プレゼンテーション能力、IT能力を養う。 5. 地域社会が抱える問題に強い関心をもち、そこに積極的に関わることでできる人間性豊かな人材を養成する。																		
学類のCP(カリキュラム編成方針)						学類の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)												
【2017年度の入学者】1年次には、国際基幹教育院での勉学および語学力の向上に集中する。2年次から履修可能な専門教育のカリキュラムは、人材養成目標1に鑑みて、幅広い知識を会得するとともに、人材養成目標2にみるように、各自の興味関心を深める専門性の確立を目的にフレキシブルに履修科目が選択できるよう設計されている。履修科目の選択に際して適切な科目選択をするよう年に2回、アドバイザー教員と面談する機会が確保されている。なお、経済学を学ぶ上で共通フレームワークとなる科目については、専門基礎科目として選択必修になっており、専門基礎科目から12単位を履修することが卒業要件となっている。3年次から、各自が関心を持つ専門演習に配属され、それぞれの専門分野をより深く探求する。演習では、研究指導を目的とした卒業研究(4年次)の履修が可能である。演習での研究活動を通じて、人材養成目標3、4、5の実現が期待される。また、演習配属後に、経済理論・経済政策コース、経営・情報コース、比較社会経済コースのいずれかに配属されるが、各コースが設定したコース選択必修科目から少なくとも16単位修得することが卒業要件となっている。なお、人材養成目標3および4の実現をめざして、経済学類で提供されている科目の一部には能動的学習が導入されている。						1. 幅広い教養を身につけ、複眼的に現代社会を視る目を養う。 2. 経済学・経営学を学ぶに必要な基礎的な考え方や分析手法を修得する。 3. 市場経済のしくみと政府の役割を理解する。 4. 企業、組織のしくみを学び、経営に必要な知識を得る。 5. 国際経済、国際社会の動向および外国経済事情に対する理解を深める。 6. 現代経済社会が形成されるに至った過程及び背景を理解する。 7. さまざまな経済学説や理論を修得する。 8. 国際社会、日本社会、地域社会が抱える諸問題を理解し、解決のための政策立案能力を養う。 9. 将来、社会の一員として働くことへの意識を高めるとともに、キャリア形成のための基盤を形成する。 10. 課題を発見し、自ら調べ、解決策を導き出す能力を培う。 11. さまざまな情報源(日本語以外で発信されているものも含む)から適切な情報を選択し、有益に活用する能力を養う。 12. 社会人に必要なコミュニケーション能力、IT能力、プレゼンテーション能力、ディベート能力を身につける。												
学類のカリキュラム																		
科目番号	授業科目名	授業科目の主題 (この授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学習目標	学年	単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
33547	アジア経済史B1	近現代中国における資本主義化・工業化の特徴。	近現代東アジアにおける資本主義的発展の意義について理解することを目標とする。	2	1													
33549	アジア経済史B2	近現代中国における資本主義化・工業化の特徴。	近現代東アジアにおける資本主義的発展の意義について理解することを目標とする。	2	1													
33551	国際経済学1	国際経済学の基礎理論	国際経済の問題を分析するための基本的な理論を理解する。	2	1													
33553	国際経済学1E	The basic theory of International Economics	This class is designed for students to understand the basic theories in international economics.	2	1													
33555	国際経済学2	国際経済問題の政策分析	国際経済学の理論、実際の政策分析への応用を学ぶ	2	1													
33557	国際経済学2E	Policy Analysis in International Economics	This class is designed for students to apply the basic theories in international economics to policy analysis.	2	1													
33559	国際貿易論1	国際貿易論基礎	国際貿易のメカニズムを明らかにする理論を理解する	2	1													
33561	国際貿易論1E	The basic theory of International Trade	This class is designed for students to understand the basic theories in international trade	2	1													
33563	国際貿易論2	貿易政策の分析	貿易政策の効果を理論に基づいて分析する	2	1													
33565	国際貿易論2E	Analysis of Trade Policy	This class is designed for students to obtain the skills to discuss trade policies based on the standard economic theories.	2	1													
33567	国際開発論1	開発を考えると、政治は決定的に重要になる。全ての開発過程は政治過程だからである。本講義では、な開発にまつわる政治問題を考え、その光と影を見たい。それによって、グローバル化する世界で展開される開発に関わる政治の今後の学習の基礎知識を養う。	まず、途上国の多様な国家・政治・制度を見て開発にまつわる政治のあり方を理解する。次に、開発に有効な国家はどのようなものかを理解する。3つ目に、民主的体制下での開発への要請と民主的体制下での開発と経済成長、貧困削減、民族、地域、政党、任意団体等の諸社会勢力との関係での諸課題を理解する。最後に、途上国の開発に対する国際機関や先進国の支援の現状について理解する。	2	1													
33569	国際開発論1E	The Main objective of this course is to understand theories of International development which tries to improve the economic and social situation of developing countries.	Students who take this course are supposed to understand theories of international development.	2	1													
33571	国際開発論2	開発を考えると、政治は決定的に重要になる。全ての開発過程は政治過程だからである。本講義では、な開発にまつわる政治問題を考え、その光と影を見たい。それによって、グローバル化する世界で展開される開発に関わる政治の今後の学習の基礎知識を養う。	まず、途上国の多様な国家・政治・制度を見て開発にまつわる政治のあり方を理解する。次に、開発に有効な国家はどのようなものかを理解する。3つ目に、民主的体制下での開発への要請と民主的体制下での開発と経済成長、貧困削減、民族、地域、政党、任意団体等の諸社会勢力との関係での諸課題を理解する。最後に、途上国の開発に対する国際機関や先進国の支援の現状について理解する。	2	1													